

## 主な論点（各委員への事前説明より）

### 基本目標（1）：市内の雇用を拡大します

基本的方向①：市内企業の経営基盤を強化します

基本的方向②：リニア開通を見越して企業誘致及び新産業創出を戦略的に進めます

基本的方向③：本市の特性や地域資源を生かして地場産業を育成します

基本的方向④：地元企業 P R や第三次産業育成等で若者や女性の雇用機会を拡大します

- ・ 中小企業の現況だが、倒産よりも、後継者難による廃業、及び、雇用と取引先を守るための売却が多い。検討すべき方向性の中の M & A サポートはどこ銀行でもやっている。ビジネスマッチングも同様。しかし、個々の金融機関の取引先同士のマッチングであり、金融機関の横の連携が課題。個々の金融機関でそうした動きを作るのは困難なので、例えば行政などがそうしたプラットフォームを作って参加を要請する形であれば金融機関もそれに乗りやすいのではないか。その場合、本市単独ではスケールメリットがない。少なくとも尾張部、名古屋圏、可能であれば県境を超えた広域での大がかりな仕掛けにした方が集まりやすい。【総合戦略：（1）①】
- ・ 中小企業振興への補助や融資は大体どこの自治体でも見かける。これにもう少し付加価値を付けて、特徴的なアイデアがあると、PR 効果も増して良い事業になると思う。【総合戦略：（1）①】
- ・ 経済のグローバル化が進む現在、国内ひいては本市に工場などの生産拠点が建つことはあまり期待できない。羽島市にコストコができたように、長久手市にイケアができたように、商業施設の誘致も考えたらどうか。海外では有名だがまだ日本に進出していない企業はないか。【総合戦略：（1）②④】
- ・ 東海ゴム工業株式会社（当時。現在の住友理工株式会社）が名駅の駅ビルから小牧市に本社を移転したように、10 分圏域なら名古屋都心から移転するような動きが出るかもしれない。名古屋駅前でたくさんビルの開発が進んでいるが、名駅前よりテナント料が安ければ勝負は可能ではないか。「検討すべき方向性」でオフィススペースの整備が挙げられているが、検討の価値はある。その際、オフィススペース内に託児施設などがあるとなお良いのではないか。オフィスの誘致については行政側の営業活動も重要。【総合戦略：（1）②】
- ・ 現在、市内にある企業がそのまま市内に存在し続けると思わない方が良い。逆に、営業活動次第で流出を防ぐことができるし、誘致をすることもできる。ある企業が美和町にエアバッグの研究施設を作った際、特段そこでなければならなかったわけではない。アンテナの感度を磨き、企業との連携を密

にし、本市を売り込んでいくべきである。【総合戦略：(1) ②】

- ・農業体験を学生の年代から進めることはできないか。農業の知識を得るためだけでなく、農家に入って本格的な体験ができないか。【総合戦略：(1) ③】
- ・稲沢市の農地規模では、どこも家族経営となってしまうがちだが、企業化できないか。【総合戦略：(1) ③】
- ・農協も地域によって力の入れ具合に差は感じている。農協とタイアップして、特産物のPRをもっと有効的にできないか。また、農家と農協と市の三者で連携し、商品開発を行えないか。【総合戦略：(1) ③】

## 基本目標（2）：市のポテンシャルを生かした定住を推進します

基本的方向①：市のブランドイメージを高めます

基本的方向②：駅周辺の高度利用を高めます

基本的方向③：就職・結婚時において居住地として選択される都市を目指します

基本的方向④：持ち家取得時において都心からの転入者の受け皿になるとともに市外流出を防ぎます

- ・一度住み始めてしまうと、その市町村で受けられるサービスの範囲内で生活する。相当な差がない限り、わざわざ他市町村へ引っ越しまでしない。その時どきのライフステージに直面した際に、どういった行政サービスがあるかを初めて知る人がほとんどではないだろうか。最初に選ばれる都市になるには、子育て支援が手厚いということより、「稲沢市」を認知してもらっていることの方が重要ではないか。【総合戦略：(2) ①】
- ・愛媛県今治市が今治タオルのブランディング・プロジェクトにクリエイティブディレクター佐藤可士和氏を起用して成功を収めたように、地域振興の分野でマーケティングのプロと連携することを検討してはどうか。ただし、初期段階では全権を委任し、独り立ちした段階からは責任を持って継続的に取り組んでいく必要がある。そのため、行政側にも相当の覚悟が求められる。【総合戦略：(2) ①】
- ・イチョウ黄葉まつりは旧祖父江町時代より、人がかなり増えた印象を受けている。先日、外国人もイチョウの黄葉を見に来ていたのを見かけた。もっとこうしたイベントを有効活用して、直接定住に結びつかなくても、本市をもっと知ってもらうことが重要ではないか。【総合戦略：(2) ①】

- ・合併前の旧体制の名残から、イベントや祭がばらばらに行われている印象がある。例えば、桜まつりも国府宮と平和でやっているが、一体的にできないか。もしくは一体感や繋がりを感じられるようにできないか。同日開催し、会場を往来できるようにすることも一案である。イベントとしてスケールが大きくなることで、本市のPRができるのではないか。【総合戦略：(2) ①】
- ・稲沢市の観光資源はあじさいやイチョウなど季節のイベントが多い。また、観光バスが善光寺に寄ってもすぐに他市に行ってしまう。コストコが羽島市にできても稲沢市（祖父江）は通過されるのみ。これでは地場産業の振興にもつながらない。年間を通じていつでもまわれる観光ルートは作れないか。るるぶトラベルなど民間とタッグを組むのも一案だが、民間に丸投げするよりもまず、市内をめぐって食べて買い物して一日過ごせるようなルートを、市のことをよく知る市職員が実際の体験を基に作成してはどうか。【総合戦略：(1) ③、(2) ①】
- ・荻須記念美術館で稲沢の文化財展が開催されていた。尾張国の国府がおかれていた地だけあり、本市は多くの寺社に文化財を有していることが良く分かった。しかし、それが分散しているため、観光資源としてのポテンシャルを発揮できていない。分散していることを逆に強みに変えてはどうか。日帰りでそれらの文化財をまわるコース（昼食も大事）を作成してはどうか。近隣の一宮市や清須市とも連携しても良い。【総合戦略：(2) ①】
- ・木曾川祖父江緑地で遊具のボルトによる子どもの怪我という事故があったが、遊具が一新され、家族連れで毎週賑わい、そうした負のイメージから脱却しつつある。バーベキューもタダだし、駐車場も広く、木曾川の自然に触れることができる観光資源としてサリオパークをもっとPR・活用すべきである。その意味では、今年から夏祭り会場として打ち上げ花火を実施したのは非常に良いことだと思う。羽島や尾西のような歴史はこれから作るとしても、稲沢のウリとして続けてほしい。当日の交通手段についても一考を。【総合戦略：(2) ①】
- ・若い女性を惹きつけるには食が重要。ワークショップで、給食がおいしいという意見があったが同感である。【総合戦略：(2) ①】
- ・国府宮駅周辺を本市の顔にふさわしいものとすることは必要である。今は銀行やタクシー会社のオフィスが単独で立地しているが、高層ビルを整備してそこに入ってもらう形にしたらどうか。また、現在の国府宮駅舎を市民病院付近に移転して新たに開発してはどうか。そうした大胆な考え方で臨まないと、現在のままで国府宮駅前の高度利用は困難なのではないか。【総合戦略：(2) ②】
- ・祖父江にも駅が4駅あるが、稲沢市の顔は国府宮駅である。その国府宮周辺を何とかすることは必要だと思うが、「平成31年までに検討」は遅すぎるのではないか。【総合戦略：(2) ②】
- ・中大通り線のリニューアルがあり、国府宮駅⇄JR 稲沢駅間は、中心地として美しくなったが、その沿線は寂しさも感じる。商店街の再開発は難しいと思うが、それなりの賑わいもほしい。また、中心市

街地の再開発に伴って、費用対効果は未知数であるが、電柱の地中化もできると街並みも整然とする。

【総合戦略：(2) ②】

- ・農地とセットで移住という取組みを進めている自治体もあると聞くが、都心部の人イメージするのは、長野県や岐阜県の山村部の田園地帯が多い。田園が多いと言えど、稲沢市では中途半端な田園地域。もし、移住のセットで考えるなら、植物プラントが一案。【総合戦略：(2) ③】
- ・人口ビジョンで課題として指摘されているが、本市は賃貸・分譲が少ない。駅前に平屋が多いことに違和感がある。なぜ国府宮駅前でマンションが建たないのか。阻害要因は何か。地権者がその要因の一つと推察するが、国府宮駅周辺を再開発すると大々的に打ち出すことで地価が高騰すれば、低未利用地の解消につながるのではないか。その意味でも国府宮駅を再開発するという市の意志を早期に表明した方が良いのではないか。【総合戦略：(2) ②③④】
- ・マンションと一戸建てでは客層が違う。本市はマンションの客層をとり逃しているし、一戸建ても他自治体と競り負けている。名古屋市というブランドを重要視する客層もいるが、無い袖は振れない客層もいる。名古屋市には 3,000 万円台のマンションはそうそうない。人口減少するとはいえ、名古屋圏は発展する余地がある。名古屋から 10 分という本市の地の利を生かさない手はない。宅地やマンションの供給をどう増やすかをもっと考えても良いのではないか。【総合戦略：(2) ②③④】
- ・これまでずっと本市に住んできたので、外部から見た本市の評価は正直分からない部分もある。本市から転出したいとは思わないが、市外から本市を選択して転入したいとも特別思わないというのが、本音ではないだろうか。【総合戦略：(2)】
- ・市内でも学校によって一クラスの生徒数が全く違う。児童数、生徒数が多い学校では、人が多いなりの集団生活、集団行動を身に付けられる。まちなかとそれ以外で、人口の大きな隔りがあるが、何とかその地域間格差を解消できる手法がほしい。【総合戦略：(2)】
- ・新市建設計画で「新市の均衡ある発展」を合併の理念として定めているが、「均衡ある発展」という言葉の解釈の違いから生まれる「東西格差」という一面的な議論に終始することなく、「各地区の特性を生かしたまちづくり」がオール稲沢で議論されるべきである。自然環境を生かしたまちづくりを行う地区、宅地開発で人を呼ぶ地区など、地区によって色を付けるべきである。【総合戦略：(2)】

## 基本目標（3）：第2子、第3子が生まれる環境を創ります

基本的方向①：男女の出会いの場・機会を創ります

基本的方向②：子育てを手厚く支援します

基本的方向③：地域で子どもを育てる環境を創ります

基本的方向④：仕事と家庭の両立が実現可能な労働環境を創出します

- ・焼き物が有名な自治体であれば、まちコンのアイデアとして、陶芸をしながら交流を深めるということも考えられる。稲沢市であるなら、例えば盆栽をまちコンのプランに組み込む。産業のPRや振興にも貢献し、特徴を活かした出会いの場となる。【総合戦略：（3）①】
- ・11月24日放映のNHK「クローズアップ現在」で、「貧困」や「孤立」といった社会的問題を抱えたシングルマザーの自殺が多いことが報道されていた。子育て支援を標榜するのであれば、こうした部分に手厚い支援を行う必要があるのではないかと。祖父江地区は祖父母が子育てに比較的協力する地域ではあるが、市全域で見るとそうした支援や地域の見守りの埒外である方も多し。シングルマザーの資格取得支援やシェアハウス、プッシュ式の子育て情報配信など、市で考えるべきことは多いのではないかと。【総合戦略：（3）②④】
- ・市民病院が医師不足に悩んでいると聞いた。医学部に入学した学生を対象に、市民病院に勤務医として働くことで返済を免除するなどのひも付き奨学金制度を市が作ることはできないかと。【総合戦略：（3）③】
- ・来年度から第3子の保育料が無料化されるとのことだが、本市に住んでいてたまたまその時期に保育のニーズがある方だけがその制度を知るような状況ではないかと。もっとアピールできればと思う。【総合戦略：（3）③】
- ・民間のノウハウやサービスを活用し、公設民営の保育園も考えてはどうか。公営にはない保育サービスを受けられることも子育て支援を手厚くするツールである。【総合戦略：（3）②】
- ・昔と比較して、地域で子育てを行うことは難しくなった。面倒は見つつも、多少けがをすることは身をもって子どもに体験させていた。良い意味でほったらかし。しかし、現在では監督責任を問われてしまう。【総合戦略：（3）②】
- ・学童保育等でお年寄りが子どもの頃の遊びを教えたり、経験を話してもらおうといった機会を創れない

か。そうすることで、子どもとお年寄りの交流ができ、道端で遭遇した時も声を掛け合うなど、地域で子どもを育てる環境づくりの一助となる。【総合戦略：(3) ③、(4) ③】

- ・地縁で稲沢を選んだという転入者の選択理由があるが、自分も可能であれば、子育ては実家の近くで行いたい。【総合戦略：(3) ③】
- ・育児休暇の取得をしやすい環境づくりが重要ではないか。また、育児休暇を取得した社員の穴埋めは、各企業で派遣社員を雇うなどで補填していると思う。そこに行政が関わり企業と連携できる道は模索できないか。同時にそうすることで、育児休暇を取得しやすい、社会復帰しやすい環境が生まれるのではないか。【総合戦略：(3) ④】
- ・工場で多くの女性が働いているが、子育てのため夜勤ができず、労使双方が困っている。24時間託児の実現可能性はないか。【総合戦略：(3) ④】
- ・国に言うべきことかもしれないが、税制改革によって、いわゆる103万円の壁、130万円の壁を無くしてほしい。この壁があることによって女性の活躍や企業の生産性向上を阻害していると思う。【総合戦略：(1) ④、(3) ④】
- ・企業の側も育休や時短制度によって子育てと仕事の両立を支援しているが、それにも限界がある。3世代同居・近居の支援など、家庭や地域の子育て力の強化も必要である。【総合戦略：(2) ④、(3) ④】

## 基本目標(4)：人口減少に対応可能な地域を形成します

基本的方向①：健『幸』社会の実現を目指します

基本的方向②：安心・安全で自然環境が豊かな生活圏域を形成します

基本的方向③：地域自治の仕組みを再構築します

基本的方向④：持続可能な行政サービスへの転換を図ります

- ・本市の合計特殊出生率が悪いとのデータがあるが、逆に要介護率の低さで勝負してみてもどうか。【総合戦略：(4) ①】
- ・高齢化が進む中、高齢者の生活支援についてコンビニとタッグを組めないか。ユニーがファミリーマ

ートと統合されるような事態になる前に、連携や支援を行うなど、もっと市として地元企業を盛り上げるような方策はなかったのか。【総合戦略：(1) ①、(4) ①】

- ・ある店舗では、仕事の役割を明確にし、高齢者を積極的に雇用しているという情報を聞いた。今後、元気で働ける高齢者は貴重な人材であるし、高齢者にとっても生きがいの部分で刺激になるのではないか。【総合戦略：(4) ①】
- ・今後高齢者は増加傾向にあるが、リタイアするにはまだまだ早い元気のいいお年寄りはいくらもいる。人生の先輩として、もっと有効的に活動してもらえる機会を設けることが重要ではないか。高齢者の生きがいにもなり、健康的な生活の持続にも繋がる。同時に、高齢者が趣味や娯楽に興じる場の提供も必要ではないか。【総合戦略：(4) ①③】
- ・本市の将来像を描くにあたりどこに軸を置くか。本市はいくら背伸びしても華々しい方向性は無理である。日本のデンマークを標榜し、福祉都市を目指してはどうか。生まれてから老後までしっかりと面倒を見て、亡くなるときに「このまちで暮らしてきて良かった」と思ってもらえるようなまちを目指してはどうか。高齢者だけではなく、障害者や性同一障害などのマイノリティにも優しいまちを標榜してほしい。「大企業優遇の企業誘致は止めて福祉の充実を」と訴える政党もあるが、先立つものがなければ福祉の充実もおぼつかない。あくまでもその両者については車の両輪で取り組むべきである。【総合戦略：(4) ①】
- ・「名古屋から 10 分圏域」が稲沢市のウリだが、名古屋から 50 分圏域の祖父江在住者からするとその表現に違和感がある。現在のコミュニティバスは、様々な施設をくまなく巡回してカバーする運行形式だが、祖父江と国府宮駅を直線でダイレクトにつなぐようなバス路線の創設はできないか。木曾川まで直線で貫通する東西幹線道路整備も必要である。「名古屋から 10 分圏域」のメリットを、国府宮駅や稲沢駅近辺だけでなく、市全域に可能な限り生かすことができれば、祖父江地区等の住宅の価値も上がり、定住促進が図られるのではないか。【総合戦略：(2)、(4) ②】
- ・祖父江や平和と直線的に結ぶようなコミュニティバスの路線創設は考えられないか。企業が朝と晩に従業員を送迎するバスがあるが、昼間は使われていない。保育園や幼稚園のバスも同様。そうした部分で連携してバスを運行する可能性はないか。【総合戦略：(2)、(4) ②】
- ・高齢者との交流を深くすることで、高齢者の刺激にもなるし、地域の子どもも育つのではないか。足助町は高齢化の傾向が少し早いせいか、高齢者には優しい取組み多いと感じる。【総合戦略：(2) (4) ②】
- ・祖父江や平和にコミュニティバスの直線的なルートを設けたとしても、通勤時間帯がバラバラであることもあり、利用に繋がるかどうかは疑問。【総合戦略：(2)、(4) ②】

- ・人口減少対策は非常に難しい問題であると実感している。出産、育児に対する直接的な支援よりも、地域が元気になることが、全体が元気になることに波及していくのではないかと。【総合戦略：(2)(4)】
- ・将来的に財源は厳しくなる一方である。これからの公共施設は高齢者の施設、児童の施設、生涯学習施設など、目的別にいちいち建てることはできなくなるのではないかと。ハコモノを作る際は、様々な用途に転用できるよう、柔軟性を持った作りとする必要があるのではないかと。【総合戦略：(4)④】
- ・インフラ整備など行政コストの削減に当たり、コンパクトシティについて一考の余地はあるのではないかと。ただし、可住地面積が広い本市では難しいかもしれないので、2支所・7市民センター地区といった小さな単位で検討することはできないかと。【総合戦略：(4)④】